

下多古の歴史ある老杉

下多古村有林は、おそらく 500 年ほど前に作られた、日本でも最古の(本当に"最古"のものではないとしても)人工林のひとつである。3,700 平方メートルの人工林には、苔やシダが生い茂る斜面に、スギやヒノキが整然と立ち並んでいる。時折、切り株が残っているだけで、これらの木々が景観美以上のものを提供していることを感じさせる。下多古の森には、樹齢約 400 年と推定される巨木が 3 本ある。そのうちの 1 本は、他の木々よりも大きくそびえ立ち、樹齢 410 年の「歴史の証人」と呼ばれるスギである。

何世紀にもわたって、この森では伐採と植林が繰り返されてきた。尾根の低い位置にある木々は、伐採や運び出し、植え替えがしやすいよう道路に近い場所にあるため、比較的新しい。しかし、尾根の頂上付近にある木々はより大きく、樹齢も長い。それが「歴史の証人」の領域であり、その高さは約 55 メートル、幹の円周は 5.4 メートルにもなる。

尾根の頂上付近にある巨木までは、道路から遊歩道が続いている。ただし、遊歩道には私有地が入っており、この森に入るには公式のガイドが同伴する必要である。尾根までの 1.3 キロのハイキングは約 1 時間で、ある程度の体力が必要である。ガイド付きツアーはかわみ源流ツーリズムにて手配が可能だ。ツアー料金の一部は村の森林の維持管理を支援するために寄

付される。